

発行所(郵便番号100)

東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング617号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (3212) 4007・1480
Fax (3212) 1447

編集責任者 岡 沢 憲 夫

印刷所 関東図書株式会社
定価200円(年間購読料参千円)

1992年2月25日発行

第24巻 第2号

(毎月1回25日発行)

昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 24 No.2

Japanska Institutet For Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No.617, Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

北欧と新国際秩序の形成

Nordic Countries and The Formation of A New World Order

北海道東海大学教授 武田 龍夫
Prof. Tatsuo Takeda

ソ連邦の解体並びに統合欧州の動向は北欧にも連動し、これに対応する再編のうねりを起しつつある。先ずツェロシヤ、ナチスドイツ、ソ連邦とつづいた東方、南方よりの脅威は三度び去った。冷戦集結、東西対立の解消は、バルト海一千年の覇権をめぐる大国間の歴史的闘争が終了したことを意味する。これによってノルディックバランスは崩壊したのである。他方マーストリヒトのローマ条約改正は欧州連合への道筋を決定した。北欧はこのソ連邦解体と欧州統合の動きの狭間で政治、外交、経済の全面的な再編を迫られることになった。先ず、冷戦下で有効であったスウェーデンの中立の意義は後退し、縮小した。シュルター、デンマーク首相の言うように、「現在の国際情勢下で中立は時代錯誤ではないのか」ということになる。しかし、スウェーデンの中立はもともと国益を中心とする理想主義、現実主義の間を重点移行する「政策」である。故に本年七月一日スウェーデンは中立政策を維持したままEC正式加入を申請したのである。中立の再定義、再解釈が必要となっているということであろう。その意味は将来WEUとNATOとの関係が明確化して、拡大された新欧州安全保障システムが成立するならば、スウェーデンの中立はその中で発展的解消をなしうる可能性が大きいということである。フィンランドの中立も同じである。ソ連との友好協力相互援助条約は廃棄ないし見直され、急速に西欧に復帰するだろう。本年六月すでにマルカはECUに連動し、世論調査は60%のEC加入を支持している。

但し対ソ貿易の激減と国内要因のため過渡期的経済危機は不可避である。問題はノールウェーである。七二年に国民投票でEC加入を否決した経験があり、「ノールウェー人のノールウェー」の世論は依然強い。しかも一六五議席中 $\frac{2}{3}$ の支持は予想困難状況にある。主要政党は反対ないし、分裂しているからだ。

もっとも九三年よりのEEAでは合意済みであり、スウェーデン、フィンランド、ノールウェーは一九九五年までにそろってEC正式メンバー国となっている可能性が大である。

現EC内では十二ヶ国七三票に対し、十六票は北欧五ヶ国が有することとなる。他方北欧理事会の深化と拡大も予想され、バルト三国、北ドイツ、旧ソ連バルト沿岸地区を含む新ハンザ同盟の構想も議論されている。このように北欧は今、深刻な経済困難の下で外交、経済再編の対応を迫られている現状である。

目次

北欧と新国際秩序の形成……武田 龍夫…1
1992/93年度予算案について(1)
……………松下 正三…2
グンナー先生のこと(1)…国本 雅也…5
<SIPニュース> ……………6
訂正……………6

1992/93年度予算案について(1)

Statsverksproposition 1992/93 (1)

—社民党の集团的解決を試みる硬直した管理社会から、個々の市民
の(選択的)自由と発展を中心におく開かれた活力ある社会へ—

元スウェーデン日本大使館参事官 松下正三

Former Councillor to Japanese Embassy in Sweden, Mr. Shozo Matsushita

スウェーデン政府は去る1月10日国会に対し、1992/93会計年度(92年7月1日より93年6月30日まで)の予算案—Statsverksproposition—を提出したので過去10ヶ年の例にならい、右予算案、予算案に示された政府の経済・財政政策、予算案の特徴、予算案の前提となった基本的な考え方経済見通し、各省予算の特徴等を財政書発行の「予算案概要」(Sammandrag)、新聞報道等に基づき、その要旨を紹介する。

なお、今次予算案は、戦中戦後の一時期を除いて1936年以来長期政権を維持した社民党(社会民主労働党)が客年9月の総選挙に敗れることによって、新たに政権の座についた保守中道連立内閣最初の予算案である。斬くて当然のことながら、予算案のレイアウトも従来とは多少趣を異にしているのでご了承ありたい。

1. 新しい経済・財政政策の理念(要旨)

—財政相 Anne Wibble

経済政策を(根本的に)編成変えする。社民党時代の政策は、大規模な集团的解決を試みようとしたものであった。これに対し我々の政策は、個々の国民の(選択的)自由と発展を中心に据えてものである。

私は市場経済の信奉者である。市場経済は競争と私的所有を前提とする。所有は貯蓄の集積である。従って所有の中心を成すものは私的な貯蓄である。独占はいまわしいものである。よって、公私を問わず独占は解消されなければならない。

市場経済において資源と繁栄を作るものは、政治家ではなく私人—従業員と企業家—である。それゆえ、私的イニシアティブは奨励され、従業員にはその能力を生かす処遇が与えられなければならない。

国際貿易と国際的な分業に協力することは、スウェーデンの繁栄にとって最も重要である。1990年代の世界は大きな変化を伴う。それはECの経済統合であり、スウェーデンのEC加盟(註

1995年を目途とする)である。もう一つの大きな変化は、東欧及び中欧におけるかつての共産主義諸国の市場経済への移行である。我々はこれを挑戦として受けとめ、これらの国際的变化によってもたらされる可能性を享受できる強い経済を築きあげねばならない。これらの要求は我々の経済政策を条件づけるものである。

スウェーデンは、長期間にわたって繁栄を創造する原動力を顧り見なかった。経済が停滞したのはそのためである。我々の積極的な政策が成功するまでには時間がかかるが、遠い先ではない。

スウェーデンを工業国家として復活させ発展力を創造するためには広い分野にわたる貢献が必要である。特に重要なことはインフレを抑制することである。そのためには財政の緊縮が必要である。

スウェーデンの国民は長い間高い税率を課せられて来た。重税は、経済活動を抑制し、発展を妨げた。これは改められねばならない。緊縮財政は、歳出抑制の形をとらなければならない。歳出は、成長のための特定の戦略的減税を実施するため、及び特定の予算支出の自動的増加を防ぐため、これを抑制しなければならない。

2. 主な経済・財政政策

(1) 歳出抑制計画

これにより今次会計年度において約140億Kr通年で約270億Krの抑制効果がある。

歳出抑制効果(億Kr)

項目	会計年度 1992/93	通年
Karensdaggar—病欠の最初の二 日間は収入減の補填をしない— (現行は最初の三日間部分補填)	23	47
歯の治療制度を改正する	6	6
薬品を有料化する	7	9
親の保証制度を簡素化による事 務費の節約	3	4

いくつかの組織等に対する国庫補助の減額	8	8
住居手当の減額	10	20
コミュニティに対する国庫助成の減額	38	75
児童手当及び学生手当増額延期	11	—
企業内部保健費補助撤廃	6	12
歯の治療などの特定分野に対する助成減額	7	11
投資助成減額	2	44
その他	4	2
計 (国家予算抑制効果)	125	238
予算外 〔失業保険 部分年金〕	17	28
	0	3
合計	約140	約270

註) 親の保障制度は、幼児のいる父または母親に18カ月、90%の有給休暇を与えるもの。

(2) 減税計画

必要とされる減税の規模は、90年代の中頃までは年間約100億Krと見込まれる。

富裕税は総額約30億Krは、94年までに段階的に全廃する。

利子税は、93年から現行30%を25%に下げる。

遺産税及び贈与税は、92年より現行最高60%から30%に下げる。

付加価値税は現在23.46%は、食糧、ホテル・レストラン・汽車・飛行機等の利用に関しては92年から18%に下げる。しかし、ECに加入(1995)すれば更に大巾に下げて、他の加盟国のそれに近づけざるをえなくなる。

その他の具体的減税案を含め多くの政策案が今春国会に提出される予定である。

(3) 経済指標・見通し

① 予算の推移 (単位 億Kr)

項目	90/91	91/92	92/93
収入	4035	4335	4187
支出 (国債の利子を除く)	3770	4193	4295
国債の利子	610	619	700
予算の収支	-345	-477	-708

② 公的セクター(国)の投資と消費

(%で示した量的変化)

項目	1992	1993
投資	15.9	8.5
消費	-1.2	0.5

③ その他

失業率: 91年末約3% (長い間2%程度であった)

92年の平均約4%

物価: (前年同期比)

90年平均約10.5%

91年末約3.4% (ほぼOECD並み)

工業生産: 90年~91年の2年前で7.5%の減少

(註 ECではこの間 約1.5%増)

時間給: 92年5%以下

3. 予算案

(1) 歳入の内訳

(百万Kr)

項目	百万Kr	% (歳入総額)	社民党前年度 当初予算
所得税	29381	6	52147
法定社会保険料	86424	18	84142
固定資産税	28830	6	23450
付加価値税	131200	27	151300
その他の物資及びサービス	70768	14	76902
(内訳)			
ガソリン税	17700		17500
煙草税	6177		5926
酒税	9260		10130
エネルギー税	16500		18800
道路交通税	7335		7400
関税	5282		5200
控除税	19712	4	11136
国营事業収益	42307	9	45648
その他の収入	10052	2	10203
総計	418674		454928
不足額	70783		598
歳入総計	489457		455526

註) 各種税率について

a) 所得税…年収186,600Krを越える部分20%
これ以下の年収は地方税のみ。

b) 付加価値税の対象……大部分の物品及びサービス

c) 法定社会保険料 (所謂“雇用主税”) ……給与総額の34.83% (38.97% 1990)

d) 法人税……30%

e) 固定資産税……物件の課税価格に対し、

一般家屋1.2%

アパート・マンション等 2.5%

事務所・店舗等 3.5%

但し、93年から2.5%に戻る。

f) ガソリン税……鉛を含まないガソリン、リットルにつき2.95Kr

但し、二酸化炭素税 0.85Krを含む

その他のガソリン 3.26Kr

g) 煙草税……重量制——シガレット1本49～70オール

(2) 歳出の内訳

客年12月、省庁の改廃が行われ、同時に、省庁の構成・担当分野は大巾に変わった。

(イ) 住宅省は廃止され、その機能は、産業省社会省、財政省及び環境・資源省に配分される。

(ロ) 「文化省」新設——文化マスメディア、移民、(男女) 平等問題等担当

(ハ) 工業省は「産業省」に発展的に組織変えする。

(ニ) 環境エネルギー省は、「環境・資源省」に組織変えする。

(ホ) 警察行政は、内務省から法務省に主管換える。

よって、「前年度当初予算との比較」の項目は、一部の省庁についてはこれを割愛することとする。

(3) 歳出の内訳

(単位 百万Kr)

項目	百万Kr	%歳入総額	社民党前年度当初の予算
王室費	60	0	53
法務省	17849	3.6	7121
外務省	17360	3.5	15437
国防省	36755	7.5	35450
社会省	135499	27.7	125970
交通省	17548	3.6	18312
財政省	71532	14.6	28777
教育省	60972	12.5	61592
農業省	6966	1.4	9346
労働市場省	37749	7.7	32922
産業省	4304	0.9	
内務省	2185	0.4	
環境資源省	1914	0.4	
文化省	10554	2.2	
国会	709	0.1	683
国債等の利子	70000	13.8	61000
不時の支出	1		1
支出予算計	491957		451026
予備費減額	4500		4500
その他予測される支出額	-7000		
歳出総額	489457		455526

註) 91年6月30日現在の国債総額は6267億Kr(前年同期5820億Kr)で、そのうち外債は736億Kr(前年同期は830億Kr)であった。

今次国家予算約4900億Krと比較すれば国債規模の大きさが十分理解できよう。

(以下次号に続く)

グンナー先生のこと(1)

The Story about Gunner (Professor Wallin)

横浜労災病院 国本雅也
Dr. Masanari Kunimoto

スウェーデン留学中の2年間は環境、経済、人権関係等様々な面で日本とは違っており、わたしなりの感想を抱いて帰国したが、やはり私のような研究という偏った狭い生活範囲と不十分な語学力ではその全体像を論ずるのは少々無理のように思えた。そこでわたしの最も感銘したことのひとつに、師事したグンナー先生の研究態度や人柄であったので、良きスウェーデン人の典型としてここにご紹介したい。

グンナー先生は本名 Gunnar Wallinで日本な

ら名字でワリン先生と呼びするのだろうか、むこうの習慣でファーストネームで呼びあうことに慣れていたので親しみをこめてグンナー先生と呼ばせていただく。先生の正確なお年はお聞きしなかったが、イエーテボリ大学の教授をもう10年近くやっておられ60に近いお年と考えた。大学はウプサラで長年そこにおられたのでいまでもお子さんのひとはウプサラ在住である。

わたしが今回留学した目的の大きな理由が、この先生から本場のマイクロニューログラフィーを

直接学びたいということであった。これはタングステン微小電極をヒトの抹消神経に直接刺入して種々の神経活動を記録する方法で、1960年代のスウェーデンのウプサラ大学の臨床神経生理学の研究グループによって開発された。グンナー先生自身がその初期の開発者の一人であると共に、現在自立神経活動に関する研究では世界的にも第一人者である。

わたしは先生のことをその論文からのみ知っていたが、その研究方法、考えかたにすばらしいものがあることを感じ、留学したい旨の手紙を直接に書き送った。何の仕事もないアジアの臨床医からの申し出に対し、先生の返事は丁寧に簡潔であった。即ち留学は歓迎する、ファンドはないので日本でもってくるようにとのことであった。それで日瑞基金から留学奨学金をいただいて留学実現となった。

雨あがりのラントヴェッター空港には先生がお一人で自家用車で迎えにきてくださっていた。到着後そのまま用意していただいた大学のゲストハウスに連れていってもらい、さらに近くのスーパー、子供の行く幼稚園、大学を案内していただいた。これら全てが教授自らなされたことにびっくりして、日本では教授が自分で手取り足取りこうした細かなことまですることははないという、逆になぜだと質問されてしまった。そして時間はあるから先ずゆっくりと家族の環境を整えてあげなさい、研究はそれから大丈夫だからと言われた。おかげで諸手続きなど1週間かけてゆっくりした気持でやることができた。

研究の第1日目は、教室を案内していただき、部門は脳波や筋電図を行う臨床部門で先生もわたしの直接の面倒をみってくれるミカエルも大変忙しいこと、麻酔科医との共同研究で手のひらの発汗の研究を行うこと、教室の誰とも良くコミュニケーションをとってくれとのことであった。

最初は余りすることがないだろうからと、これからの研究に必要な文献を手渡され、それに目を通しておくように言われた。日本では満身に机の前に座る時間のなかったわたしには、なにか落ちていて研究できそうだと予感が感じられた。研究はヒトの手のひらに分布する正中神経を微小電極を用いて刺激し、手のひらに起こる発汗を皮膚電気抵抗を用いて測定しようというもので、痛みを与えずに刺激するために腕の付け根で麻酔をかけてブロックすることが必要であった。わたしに

とっての最大の不安は被験者にとってかなり大変なこの検査をスウェーデン人相手にうまくやっていけるかどうかということであった。「最初はどうかやっていいかわからない。」という、「心配するな、わたしが一緒にやるから。」と言ってくださった。そして最初の3回くらいの検査はグンナー先生自らやられて、見事失敗だった。マイクロニューログラフィーはうまくいくのだが、麻酔のかかり方が不十分であった。この時は先生自身うまくいかないことに少し落胆されたが、そこからも学ぶ何かがあるとされて、麻酔の方法を変え、4回目は別の麻酔科医に頼んで見事に成功した。この時すでにグンナー先生には、微小電極で刺激した時の反応がどうなるのかの予測がついていたようで、記録針の回りに集まった我々にこの反応は動物実験の文献から予想されたことだとか、次にどういう刺激を与えてみようとかそしてそれはこうなるはずだとか、ご自分の考えを述べられた。失敗を繰り返していた間にこれだけのことを考えておられたのかと、わたしは自分の計画の甘さに赤面する思いであった。

ひとつの実験が終わると教授はすぐにそのサマリーを見たいと言われた。即ちひとつの実験は2～3時間にわたる長いものなのだが、テープレコーダーを早回しにして短い用紙に書出し、その全体像をまず掴もうとされたのである。実験の日はわたしも朝5、6時くらいから出掛けて言って、昼過ぎに実験が終わり、その整理をしてふーっと一息、遅いしかし成功したときはうれしい昼食を摂って、さっそくサマリーを作って先生と討論すると本当に充実した一日となった。4回目のやっと成功したしかもきれいな記録を、わたしの配線ミスでテープに記録できていなかった時、わたしもつくづく自分がいやになったが、グンナー先生の落胆ぶりもすごかった。[オー！マ・サ・ナ・リー！！]としばらく絶句しておられたが、やがて気をとりなおされると、今となることができることは実験中の記録用紙からこれこれを計算することだけだ、といくつかのことを指示された。そして、同じ失敗を繰り返さないためには実験中に録音状況をチェックすることだということも付け加えられた。

(つづく)

※ 国本雅也氏は、昭和63年度日瑞基金の派遣研究員として翌年9月から一年間、スウェーデンで研究をされました。

ストックホルムのスカンジナビア技術フェアで授与された発明家賞

10月21日～26日にかけて、ストックホルムの国際会議場ストックホルムス・メッサン (Stockholmsmassån)において、スカンジナビア技術フェアが開催され、30ヶ国790社が参加した。中国、ポーランド、ソ連、チェコスロバキアの各パビリオンがある。展示会場 (総面積1万2,860㎡)には3万9,000人の観客が訪れた。ただし、同イベントは一般公開はされなかった。

1991年度技術フェアと並行して開かれた6つの小博覧会は、各々違ったテーマを有していた。木材技術、フォグテック (Fogtec—接合joining)、IMAT (素材処理)、I-TOOL、SKAPA (発明) I T E C (全部で7つの技術部門をテーマに扱った)。また、これらの博覧会と同時に、最大の北欧技術会議であるテクニカルウィーク会議 (the Technical Week)とバルト海沿岸地域の貿易振興を目的とした会議であるバルチック・フォーラム (the Baltic Forum)、エネルギーウィーク会議 (the Energy Week)等が開かれた。

1990年よりスカンジナビア技術フェアに統合されたSKAPAフェアでは、アルフレッド・ノーベル (Alfred Nobel)を記念する奨学金が、地方審査で選抜された24人の決戦出場資格者のうちの多くの発明家に授与された。トップ賞の賞状と10万クローナ (230万円)はフィルムのいらぬ歯科用X線装置「センズアレイ」(Sens-a-ray)を開発した功績により、スズヴァルのペール・ネルヴィーグ (Per Nelvig)におくられた。新装置を利用すれば、歯科医は患者のあごのX線写真を撮影後即時にPCスクリーンで見ることができ、それをPCにデジタルで記憶させることが可能である。また、この方法だと患者へのX線放射量や治療回数が今までに比して少なくてすむといわれる。

また、賞状と5万クローナ (115万円)が、ノルテルイエのトールシルド・バウムバッハ (Thorkild Baumbach)におくられたが、彼の場合は分岐導管を接続するための工具 (特許品)を開発した功績が認められたものである。この接続部はガスや液体等の内容物を抜かずに既存の配管に連結させることができる。この他に、賞状が次の3人の決戦資格出場者に授与された。カトリーヌホルムのインゲマル・ビェルク (Engemar Bjorck薬から銅ガードルcopper girdlesを取り除く装置を発明)。シュントルプのソニー・ヘルマンソン (Sonnie Hermansson大きなプレスにプレッシングツールを設置するためのルースの指導。なお、このシステムは既にスウェーデンの自動車工業で使用されている)。デレスプーのハーンズ・マッティン (Hans Martin;赤外線分光火災探知器を発明、同器は煙探知器よりはやく、まちがいがなく、放射性物質を全く含まないといわれる。)

(SIP 311/91)

《お詫びと訂正》

前号月報に以下の箇所に誤植がありました。ここに訂正させていただきます。また、関係各方面には大変ご迷惑をお掛け致しました。

心から深くお詫び申し上げます。

P 1 M a → M e, b → B,

P 3 s → S, E → H, 写真下2行目 瑞首相 → 現首相,

P 7 3行目 Di → Ul,